

阪神・淡路震災復興計画後期5か年推進プログラム
フォローアップ委員会（第3回） 開催概要

1. 日時 平成14年8月27日（火） 13:30～15:30
2. 場所 パレス神戸 2階 中会議室
3. 出席者 端信行委員長、市川禮子委員、加藤恵正委員、角野幸博委員、河内厚郎委員、小林郁雄委員、中島克元委員、北条勝利委員、松原一郎委員、森綾子委員
4. 議事内容

（「復興仕上げ3か年実施プログラム（仮称）」（素案）について）

「山手ふれあいロード構想」については、ポケットパークや防火栓の設置等の災害対策も重要であるが、もっと都市の道路らしく、芸術文化センターの整備等にあわせて文化的な付加価値をつけるなど、「文化回廊」ともいえるような整備を考えていくべきである。

人と防災未来センターやひょうごボランティアプラザのような大規模な施設と規模の小さなNPOとがうまく連携を図って、「協働で取り組んでいく」という視点が必要である。

アメリカでNPO法人に公営住宅の管理を委託したら、NPO法人の活動があっという間に広がったという事例がある。例えば、自治会がNPO法人になって、公営住宅の管理を行えば、地域の見守りにもつながると考えられる。NPO法人の位置付けを明確にした上で、既存の地縁組織とNPOとの関係について検討するべきである。

南芦屋浜災害復興公営住宅のシルバーハウジングにおけるLSAの活動調査によると、夜間の緊急通報が全体の約7割にのぼり、相談や一時的家事援助も夜間の割合が1/4～1/3と多い。また、シルバーハウジング以外の高齢者に対するヒアリングでは、有病率や閉じこもりの増加、人間関係の希薄さ等が浮き彫りになっている。これらの調査から、75歳以上高齢者の介護予防の必要性や、LSAの相談・話相手といった業務の重要性、疾病に関する学習の場づくりの必要性、外出する意欲をどう引き出すかという点を課題として指摘できる。今後は、見守りだけでなく介護の視点が必要であり、具体的には、サテライト型の在宅介護支援センターや子ども・障害者を含めたディケアのスペースを復興公営住宅の中に設置していくべきである。

見守りについては、市川委員の調査を見ても、夜間の問題が深刻化している。芦屋浜では24時間型LSAが配置されているが、そうではない他の地域ではどのような状況になっているのか危惧される。

標題のサブタイトルは、「成熟社会につなぐ創造的復興」でよいのではないか。

「多核・ネットワーク型都市圏の形成」という表現は、内容とズレがあるのではないか。

エコ・ツーリズムやグリーン・ツーリズムなどの「自然との共生」についても盛り込むべきである。

震災と不況のダブルパンチに対して、人々を元気づけ、活性化させるようなインパクトのあるものを発信するべきである。

区画整理事業地区では、空き地が多く、その地権者の多くは不在地主である。そのような地権者の土地利用の意向を把握するための調査を行うべきである。

被災地の土地利用の調査については、悉皆調査ではないが、「街の復興カルテ」の調査結果もあり、それらをもっと分析するべきである。

特区構想については、兵庫県が震災後、国に先行して取り組んできたエンタープライズゾーン構想の取り組みをより評価した視点で、もっと多様な形で提案できないか。

企業誘致においては、トップセールスが有効であるとともに、HISのような機能が戦略的に重要であることははっきりしており、国からの補助が終了する平成17年度以降も引き続き設置すべきである。また、特区構想が実現すれば、別途、特区を支えるサポートセンターが必要であるなど、現在よりさらに強化した形で位置付けるべきである。

西宮市の臨港線周辺地区に見られるように、震災後、地域像が変わってしまった。この変化をしっかりと捉えて、今後の方向性を考えていくべきである。

神戸市は医療産業都市構想を神戸経済の起爆剤として進めているが、市民や地域経済にとってどれほど関係があるのかを示す必要がある。

公営住宅等の空き家を活用して、小規模なグループハウスやグループホームを設置することを検討すべきである。

団地コミュニティ調査の実施にあたっては、なるべく地域の人々を調査員に採用して、個々の実情を詳しく聞き出すことが必要である。

ベンチャー企業やコミュニティ・ビジネスが震災後、どのように育ってきて、今後どのように発展していくのか、特に雇用の側面に力点を置いて整理する必要がある。

(まとめ)

行政の活動と市民の活動が重なる部分が多くなってきており、市民と連携してやっていく取り組みについては、「支援する」という表現だけでは不十分であり、「協働」という視点をもっと明確にしていくべきである。

市民と協働で実施していく事業と行政が主体的に実施する事業を区別して表示する必要があるのではないか。

本日は、「復興仕上げ3か年実施プログラム(仮称)」(素案)に対する貴重なご意見を賜った。事務局で各委員の意見等について検討の上、プログラムの最終案を作成し、次回の委員会でとりまとめを行いたい。

次回の第4回委員会を9月19日に開催する。